

# ①<トスキナの人> 発言・猪野 健治

## 「香具師と社会主義運動考」

香具師社会は、時代とともに変転を続けている。親分子分制の上に一家や組を形成する組織形態はまったく変わっていないが、現在では全国的に露店の出店区域が大幅に制限され、平日（ひらびと読む＝常設露店のこと）は都市部では全面禁止となっている。天下の悪法・暴力団対策法の施行がそれに拍車をかけた。

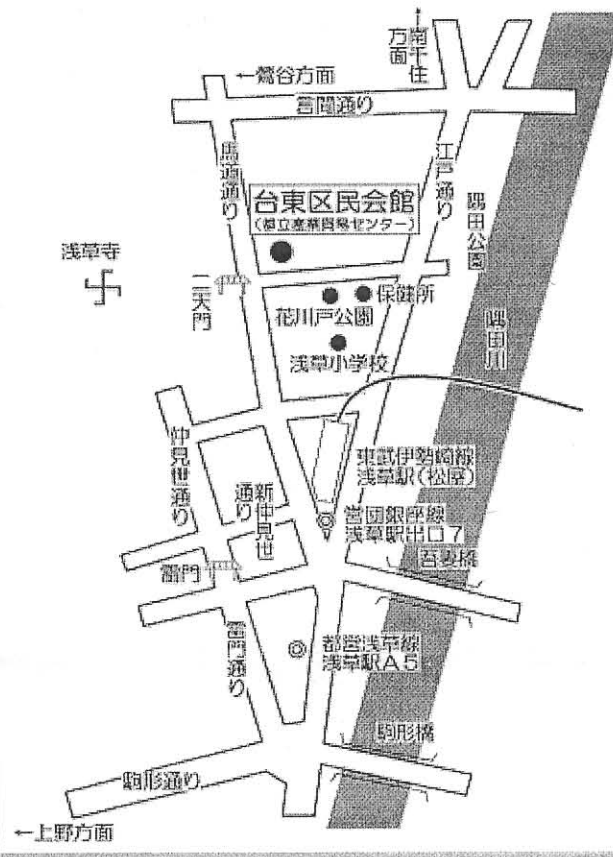
香具師が露店を取り上げられたら生活できない。そこで博徒やぐれん隊と同じように、債権取立て、ヤミ金融などのグレーゾーンに手を染め、山口組などの巨大組織の傘下に入ってしまう一家や組が続出した。香具師社会はいまや崩壊の危機にあり、トランク一つをぶら下げて、どこにでもいく「寅さん」のような自由な空間はない。……

## ② トスキナの由来、懇談等

■大正8年5月8日・浅草観音劇場公演チラシ その昔、明治の演歌の立役者、添田唾餅坊と社会主義者、堺枯川との合作で「呷！金の世や」（明治39年9月）がラップ節のメロディーにのせて誕生。……やがて、大正期に入り浅草オペラ草創期に猿与太平が「呷！金の世や」を『トスキナ』というオペレッタで復活させる。『トスキナ』とはアナキストの意であるが、そのまま表記すると 事前検閲でばれてしまうところから、逆に並べ変えた。……当時の浅草、カフェ・パウリスタの二番テーブルに屯する、「自由倶楽部」の面々の雑談から生まれた。二番テーブルはアナキストたち、美的流浪者の解放区、金のある奴が余計に払い、無い奴は伝票を釘に刺しておけば、食い逃げしてもいいという「相互扶助」の実践であった。……当時の浅草ではそう評判にはならなかったが、「トスキナの歌」はインテリ高等遊民には、よく愛唱されたそうである。（K）

### 台東区民会館（浅草）

東武伊勢崎線浅草駅下車、徒歩5分  
営団銀座線浅草駅下車、徒歩5分  
都営浅草線浅草駅下車、徒歩8分



5月28日土曜 午後6時から8時半

会場・台東区民会館第一会議室「トスキナの会」

右地図参照、浅草寺二天門入口 講座に関する問合せ TEL 03-3324-8523 昼12時から14時 E-メール tosukina@s3.ocv.ne.jp 会場費■500円

## ■『トスキナ』創刊号内容案内<抄> A5判本文96頁

★香具師と社会主義運動考 猪野 健治★「和田 久太郎 もろもろの……」 正津勉★当たりの涙を見た 庶章 岡本潤のあれこれ 小倉 三郎 ★木村通信社とアツさくら 大澤 正道「秋山清が東京深川の木場にあった木村通信社で戦時下を凌いだこと、その木村通信社には川柳の鶴形がいたことはわたしも知っていた。だから木村通信社は戸田達雄のオリオン社と並んで戦時下のアナ系の避難所と受け止めていた。オリオン社には辻まこと、竹久不二彦、島崎藤助ら二世や矢橋丈吉が働いていた。……」 ★金子文子の活動と死 亀田博★魯迅、周作人とエスペランティストたち 手塚登士雄 ★本郷アナキズム文学散歩 紅野謙介★『秋山著作集』刊行開始 奥沢邦成 ★新村忠雄書簡 未公表書簡解説 北沢文武 ★コロメルに大杉菜の名を告げたのは小松清 亀田 博「……小松はパリのタンブル通りのレストランで開催されたアナキストの秘密集会に出席し、フランス・アナキスト同盟の代表であるコロメルとバーのスタンドで立ち話をしたことがあった。…」★秋山清はエレベーター・ボーイだった 黒川洋<『文芸ビルディング』掲載 エレベーター・ボーイ 局清>「雑文は1922年9月18才で上京した局清こと後の秋山清のものである。『文芸ビルディング』新築落成号（28年10月号『悪い仲間』改題）に掲載されている。労働観を含めた世界観はその晩年まで殆ど変質していない秋山の資質が原形としてある。……」 ★<書評> ★事典<訂正と追補> 2

## ■「トスキナの会」入会案内 この会はアナキズムと一般に呼ばれている文芸・思想・運動・歴史に魅力を感じる人たちに開かれています。『トスキナ』

（年二回）を発行。広くアナキズムに関わる論文・情報・資料・『日本アナキズム運動人名事典』の追補と訂正を掲載。時々、研究会、記念イベント、探索行を催します。会の運営、雑誌の編集などのために手をあげた数人の世話人をおきます。年会費、三千元頂戴します。会員には雑誌『トスキナ』を一冊差し上げます。執筆者には二冊差し上げます。また、会の催事の案内をいたします。会費は右記へ 郵便貯金口座番号 10160-83409701 カメダ ヒロシ